様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００７１２

研究課題名（和文）高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの確立 ―尺度化と妥当性検証

研究課題名（英文）Establishing a business Japanese framework required for highly-skilled foreign human resources - Scaling and validation

研究代表者
葦原　恭子（Ashihara, Kyoko）

琉球大学・グローバル教育支援機構・教授

研究者番号：３０５６６５３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，ビジネス日本語教育および高度外国人材の育成・評価に資するビジネス日本語フレームワーク（以下，BJFW）を構築している。インタビュー調査の結果，高度外国人材は，言語能力や異文化間コミュニケーション能力を活かし，仲介活動をしていることが明らかとなった。また，CEFR補遺版が発表され，「仲介」活動について，新たな定義と例示的能力記述文（Can-do）が加えられ，複言語・複文化社会における「仲介」の重要性が明らかとなった。そこで，CEFR補遺版の仲介Can-do 240項目を翻訳・精査・分析し，BJFWの「仲介活動」Can-doを全49項目を構築し、尺度化のため量的調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究によって構築されるBJFWは，これまでにはなかった汎用的な評価基準となるCEFRを援用した高度外国人材対象のB2レベル以上のCan-doである。
今後は，全Can-do項目について量的調査を実施し，項目の難易度を推定するためにラッシュ系モデルによる統計分析（尺度化）を行う。その結果に基づき，Can-do項目を難易度順に並べ，レベル設定を行い，尺度化し，BJFWを完成する。完成したBJFWは，高度外国人材の育成・教育・評価に資するべく，ウェブサイトで広く公表する計画である。

研究成果の概要（英文）：We are building a Business Japanese Framework (hereinafter referred to as BJFW) that contributes to business Japanese education and the development and evaluation of highly skilled foreign human professionals. Our interview survey revealed that highly skilled foreign professionals utilize their language and intercultural communication competence to engage in mediation activities.Meanwhile, CEFR-CV 2018 was published, adding new definitions and exemplary ability statements (hereinafter referred to as Can-do) for mediation activities, highlighting the importance of mediation activities in a multilingual and multicultural society.
Therefore, we translated, examined, and analyzed the 240 mediation Can-do items in the CEFR-CV 2018 and constructed the BJFW's Mediation Activities Can-do. There are 49 items in total.Next, we conducted a quantitative survey on 218 highly skilled foreign professionals.

研究分野：日本語教育

キーワード：Can-do statements　高度外国人材　仲介活動　mediation　CEFR-CV 2018　異文化間コミュニケーション能力　ビジネス日本語フレームワーク　ビジネス日本語能力

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年，日本では企業における高度人材としての外国人社員の需要が高まっている。日本社会の労働力人口減少およびビジネス環境のグローバル化の進展がその背景にある。高度外国人材にはビジネス日本語能力が求められるが，その評価基準は，定まっているとはいえない。そこで，本研究では，ビジネス日本語教育および高度外国人材の育成・評価に資する「ビジネス日本語フレームワーク」を構築している。先行研究の高度外国人材に対するインタビューによると，高度外国人材は，言語能力や異文化コミュニケーション能力を活かし，日本企業と取引先の仲介役として活躍しているという。2018 年には，CEFR 補遺版が発表され，「仲介」活動について，新たな定義と例示的能力記述文（以下，Can-do とする）が加えられ，複言語・複文化社会における「仲介」の重要性が示された。本研究は，CEFR 補遺版の仲介 Can-do 項目を翻訳・精査・分析し,「仲介活動」Can-do 項目を確定し，次いで，高度外国人材が経験している仲介活動およびその自己評価を明らかにするために，高度外国人材を対象に量的調査を実施した。

２．研究の目的

2022 年度に，高度外国人材として日本企業等に就職した元留学生は，33,415 人となり，2021 年度より 3,408 人（10.7%）増加した。この背景にあるのは,日本社会における労働力人口の減少とビジネス環境のグローバル化の進展である。このような状況下で，大学や日本語学校など日本語教育の現場では，ビジネス日本語教育のニーズが高まっている。ビジネス日本語に関する Can-do については，葦原（2014）が BJT ビジネス日本語能力テストに基づく Can-do を公表している。また，厚生労働省（2020）が,「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」として CEFR を援用した A1～B2 レベルの Can-do を公表している。しかし， CEFR を援用した高度外国人材対象のビジネスタスクの Can-do は，管見の限り公表されていない。本研究は，汎用的な評価参照枠となる「ビジネス日本語フレームワーク（以下，BJFW とする）」の構築を目的とする。このフレームワークは，高度外国人材の育成・教育・評価に資する枠組みとなる。

３．研究の方法

本研究は，次のプロセスで CEFR-CV 2018 を援用した「仲介」Can-do 案を開発した。1）CEFR-CV 2018 の仲介に関する記述を抜粋・翻訳する。2）仲介の Can-do を抽出し，日本語に翻訳する。3）内容を精査し, BJFW の Can-do として書き換える。CEFR-CV 2018 から抽出された仲介の Can-do は 240 項目である。BJFW に追加するために，Can-do の再構築の作業をする上では，次のようなプロセスが発生した。1）翻訳した Can-do 記述をビジネス場面に置き換える。2）ビジネス場面に置き換えることができないものは，リストから除外する。3）二言語間で行われる仲介については，起点言語が日本語で目標言語が日本語以外の言語の場合，およびその逆の場合，の 2 パターンの Can-do を作成する。4）A1～C2 等の尺度のレベル差をつけるために用いられるマイナス条件（「翻訳がぎこちないが」「発話に間違いがあるが」など）については削除し，タスクの難易度によってレベル差をつける。以上のようなプロセスを経て, 240 項目が BJFW の能力記述文項目バンクに登録された。

次いで，本研究では，「仲介」Can-do を確定するために次のような質的調査を実施した。

1）高度外国人材の就職支援に携わる日本人の専門家に依頼し，3 名が，項目バンクに登録された Can-do 項目について，その必要度（「全く必要ではない ＝1」から「とても必要である ＝5」の 5 段階）を評価した。さらに各項目について問題点や改善点等，気づいたこと（例：表現がわかりにくい，場面が想像しにくい，意味がわからない等）についてコメントをした。

2）日本で就業している高度外国人材に依頼し，2 名が，Can-do 項目について，経験の有無とその必要度，自己評価（「ほとんどできない ＝1」から「問題なくできる ＝5」の 5 段階）を回答した。さらに，各項目について問題点や改善点等についてコメントした。3）質的調査で得た評価とコメントを元に，さらに Can-do 項目を精査・修正した。この質的調査を経て，表 1 の通り，49 項目を「仲介活動」Can-do として確定した。

表 1：仲介活動の Can-do

仲介活動	項目数
日本語・日本語以外の言語間の口頭による仲介	22
日本語・日本語以外の言語間の書くことによる仲介	12
会議における日本語・日本語以外の言語間の仲介	6
日本語のみによる仲介	9

さらに，本研究では，確定した仲介活動 Can-do の49項目について，高度外国人材を対象に，量的調査を実施した。調査の目的は，次の2点である。

1）高度外国人材はどのような仲介活動を経験しているか。

2）自己評価が特に高い項目の特徴，あるいは低い項目の特徴は何か。

確定した「仲介活動」の 49 項目について，国内外で就業し，日本語を使用して業務にあたっている高度外国人材を対象に Microsoft フォーム（日本語・英語・韓国語・中国語簡体字・中国語繁体字版）を作成し，アンケート調査を実施した。

本調査の実施期間は，2022 年 2 月～3 月である。

また，調査項目は次の通りである。1）調査回答者のプロフィールについて，出身地・母語・日本語学習歴・日本語レベル・業種・部署名・役職名・勤続年数・勤務地・職種・担当業務に関する情報を得た。2）業務上の「日本語・日本語以外の言語間の口頭による仲介」22 項目，「日本語・日本語以外の言語間の書くことによる仲介」12 項目，「会議における日本語・日本語以外の言語間の仲介」6 項目，「日本語のみによる仲介」9 項目の全 49 項目について，経験の有無を確認する。3）49 項目について「ほとんどできない ＝1」から「問題なくできる ＝5」の 5 段階で自己評価する。その結果，日本国内外（国内 95，国外 123）で勤務する 22 カ国・地域出身者 218 名から回答を得た。

４．研究成果

本研究による Can-do 調査の結果，次のことが明らかとなった。1）「経験あり」と回答した者の割合は,「日本語・日本語以外の言語間の口頭による仲介」（平均値 68.1%）が最も高く「会議における日本語・日本語以外の言語間の仲介」（平均値 57.7%）が最も低かった。2）自己評価の平均は「日本語・日本語以外の言語間の口頭による仲介」（平均値 3.86）が最も高く，「日本語のみによる仲介」（平均値 3.62）が最も低かった。3）「日本語・日本語以外の言語間の口頭での仲介」の自己評価は，日本語→日本語以外（平均値 3.93），日本語以外→日本語 （平均値 3.80）

で，日本語を日本語以外の言語に口頭で仲介する活動の評価が高かった。4)「日本語・日本語以外の言語間の書くことによる仲介」の自己評価は，日本語→日本語以外 （平均値 3.77），日本語以外→日本語 （平均値 3.67）で，日本語を日本語以外の言語に書いて仲介する活動の評価が高かった。

本研究によって構築される BJFW は，これまでにはなかった，CEFR を援用した，汎用的な評価参照枠となる高度外国人材対象のビジネスタスクの Can-do である。この Can-do は，高度外国人材のビジネス日本語能力を評価するシステムとなりうると同時に，ビジネス日本語教育の現場において，教員や学習者にとって明確な目標レベルが提示できるなどの利点がある。今後は，全 Can-do 項目について量的調査を実施し，項目の難易度を推定するためにラッシュ系モデルによる統計分析（尺度化）を行う。その結果に基づき，Can-do 項目を難易度順に並べ，レベル設定を行い，尺度化し，BJFW を完成する。完成した BJFW は，高度外国人材の育成・教育・評価に資するべく，ウェブサイトで広く公表する計画である。

引用文献

葦原恭子（2014）「ビジネス日本語 Can-do statements」http://business-japanese-cando.jp

厚生労働省（2020）「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」
https://www.mhlw.go.jp/content/11800000/000773360.pdf（2024 年 6 月 7 日参照）.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 葦原恭子,島田めぐみ,塩谷由美子,奥山貴之,野口裕之	４．巻 7
２．論文標題 高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは ― 質的調査法・量的調査法を用いたCan-do statementsの構築 ―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 琉球大学国際教育センター紀要	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 葦原 恭子，塩谷由美子，島田めぐみ，奥山貴之，野口裕之	４．巻 6
２．論文標題 高度外国人材に求められるオンライン業務スキルに関する実態調査 ―CEFR-CV 2018に基づき開発したCan-do statementsを用いて―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 琉球大学国際教育センター紀要	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 葦原恭子，塩谷由美子，島田めぐみ	４．巻 第5号
２．論文標題 高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとはーCEFR2018補遺版に基づくCan-do statemetnsの開発ー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 琉球大学国際教育センター紀要	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 葦原恭子,塩谷由美子，島田めぐみ	４．巻 4
２．論文標題 高度外国人材に求められる「仲介」スキルとはーCEFR2018補遺版におけるmediationの分析を通してー	５．発行年 2020年
３．雑誌名 琉球大学国際教育センター紀要（琉球大学留学生センター紀要通算17号）	６．最初と最後の頁 11-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 葦原 恭子，塩谷由美子，島田めぐみ，奥山貴之，野口裕之	4．巻 27
2．論文標題 高度外国人材に求められる「仲介」能力とは ― 質的調査法・量的調査法を用いたCan-do statementsの構築 ―	5．発行年 2024年
3．雑誌名 東アジア日本語教育・日本文化研究	6．最初と最後の頁 33-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　5件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 葦原恭子,島田めぐみ,塩谷由美子,奥山貴之,野口裕之
2．発表標題 高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは ― 質的調査法・量的調査法を用いたCan-do statementsの構築 ―
3．学会等名 日本語教育学会2022年度秋季大会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 高度外国人材に求められる「仲介スキル」&「オンライン業務スキ ル」とは―CEFR補遺版を援用したCan-do statementsの構築―
2．発表標題 葦原恭子
3．学会等名 「日本語教育の参照枠」補遺版の検討に関するワーキンググループ（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 葦原恭子・塩谷由美子・島田めぐみ・奥山貴之・野口裕之
2．発表標題 高度外国人材に求められるオンライン業務スキルに関する実態調査 ―CEFR 2018に基づき開発したCan-do statementsを用いて―
3．学会等名 2021年度 日本語教育学会 春季大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 葦原恭子,塩谷由美子,島田めぐみ，奥山貴之,野口裕之
２．発表標題 高度外国人材に求められるオンライン業務スキルに関する実態調査 ―CEFR 2018に基づき開発したCan-do statementsを用いて―
３．学会等名 日本語教育学会春季大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 葦原恭子
２．発表標題 高度外国人材に求められるビジネス日本語能力の評価ービジネス日本語Can-do statementsからビジネス日本語フレームワーク構築へ
３．学会等名 日本テスト学会 第17回大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 葦原恭子，塩谷由美子，島田めぐみ，奥山貴之，野口裕之
２．発表標題 高度外国人材に求められる「仲介」スキルとはーCEFR2018補遺版におけるmediationの分析を通してー
３．学会等名 沖縄県日本語教育研究会 第17回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 葦原恭子，塩谷由美子，島田めぐみ，奥山貴之，野口裕之
２．発表標題 高度外国人材に求められる「仲介」能力とは ― 質的調査法・量的調査法を用いたCan-do statementsの構築 ―
３．学会等名 東アジア日本語教育・日本文化研究会（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 葦原恭子
２．発表標題 CEFR2001，CEFR-CVと仲介，複言語・複文化 ―日本語と外国語―
３．学会等名 宮崎大学多言語多文化教育研究センター主催　公開研究会
４．発表年 2024年

１．発表者名 葦原恭子
２．発表標題 異文化接触と異文化間教育
３．学会等名 琉球大学主催　公開研究会（招待講演）
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	島田　めぐみ (Shimada Megumi) (50302906)	日本大学・大学院総合社会情報研究科・教授 (32665)	
研究分担者	野口　裕之 (Nogucho HIroyuki) (60114815)	名古屋大学・教育発達科学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	塩谷　由美子 (Shiotani Yumiko) (60744315)	東京富士大学・経営学部・教授（移行） (32803)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	奥山　貴之 (Okuyama Takayuki) (00745490)	沖縄国際大学・総合文化学部・准教授 (38001)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関